

目 次

PROLOGUE ろけっとぽっぽーとホッホー博士の 会話を聞いてみた —————1

CHAPTER I ミクロ経済学って何だろう？——7

- 経済学でお金儲け？ 7
- マクロ経済学とミクロ経済学の違い 10
- 経済問題はどのように起こるの？ 12
- 資源の分け方 16

CHAPTER II 幸せになりたい！—————21 ——消費者の目的

- 人間を分類しよう 21
- なにを考えて生きてるの？ 24
- 幸せの増え方 26
- ゲンカイコウヨウテイゲンノハウソク？ 32

CHAPTER III 幸せを大きくするためには？——37 ——消費者行動

- パンはタダじゃない 37
- 幸せを一番大きくするには 42
- パンの値段が変わったら 45
- 需要曲線を手に入れた！ 49
- 人間の幸せが面積で表される 52
- 幸せは比べられるの？ 人間は利己主義者ばかりなの？ 58

CHAPTER IV 利益を得たい！—————61

——生産者の目的

新しいことがまた始まるのかなあ 61

インプットとアウトプット 63

アウトプット（生産量）の増え方 65

グラフをひっくり返そう 71

総費用と限界費用 74

CHAPTER V 利益を大きくするためには？—————79

——生産者行動

生産者の行動分析 79

利潤を一番大きくするには 85

パンの値段が変わったら 87

供給曲線を手に入れた！ 90

利潤が面積で表される 93

固定費用を忘れちゃいけないよ 95

CHAPTER VI 幸せになりたい人と

利益を得たい人との出会い—————101

——市場

市場ってなあに？ 101

完全競争市場であるためには 104

需要曲線と供給曲線が出会うと？ 112

CHAPTER VII 市場メカニズムが社会の幸せ

を大きくする理由—————119

社会の幸せの大きさは？ 119

社会の幸せの大きさ比べ 121

市場均衡ってエラい！ 128

市場メカニズムで本当に幸せは大きくなるのかな？ 130

行列で商品を分けてみよう	133
抽選で商品を分けてみよう	136
市場メカニズムで商品を分けてみよう	138
やっぱり市場メカニズムはエライ!	140

CHAPTER Ⅷ 市場メカニズムって万能なの? —143

完全競争市場は存在するの?	143
幸せは誰のところに行くのだろうか	147
市場が失敗しちゃう	151
市場メカニズムをうまく使おう	156

あとがき	159
------	-----

索引	162
----	-----

著者紹介	164
------	-----

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用でも著作権法違反です。

登場キャラクターの紹介

ぼっぽーさん

正式の名前は「ろけっとぼっぽー」。有斐閣の公式キャラクター。おっちょこちょいではしゃいだりするが、根は素直で正直。「ろけっとぼっぽー」の名前が長すぎると、ホッポーさんから略して「ぼっぽー」と呼ばれるが、「ぼっぽー」は「六法」に通じると勝手に考えて、本人はまんざらでもなさそう。



ホッポーさん

法学についての学識が豊富で勉強好き。法学の分野では「ホッポー博士」と呼ばれているが、今回はまったく知らない経済学の世界に入るので「博士」の名前を返上するという謙虚なところも。フクロウだけに夜型。今回は朝型になるため必死で睡眠調整したらしい。



タケウチ先生

女子大の先生。専門は交通経済学、公共経済学などの応用経済学。そのため「私がミクロ経済学の基礎理論を語るなんてとてもとても……」と謙遜するくせに、しっかりと自分の本の宣伝はする。奥さんからは「一番『合理的な経済人』にほど遠い人間」と言われている。



PROLOGUE

ろけっとぽっぽーとホッホー 博士の会話を聞いてみた



ねえ、ホッホー博士。最近なんだか忙しすぎると思わない？



そうだね、いろんな本に出てなにかんだとお仕事が多くな
ったよね。有斐閣のサイトにも出っぱなしだしね。



そうそう。学問の案内もするし、お茶くみもするし、ヒト使
い、いや、トリ使い荒いよね。



君は有斐閣のサイトのなかじゃポンポン振って踊っていたり
もするもんね。



有斐閣って法学だけじゃなくて、経済学や心理学、社会学、
教育学なんて分野も扱っているから、これからますますお仕事
が増えそうだよ。



さすがにこの出版不況だし、競争も激しいから有斐閣もいろ
んな分野を取り込んで経営の多角化をやっていかないとね。の
んびり構えていられないってことかな。



えっ？ 有斐閣潰れるの？ 早く転職先見つけなきゃ。



いやいや、そんなことはないけど。でも、その格好じゃ、他の出版社には雇ってもらえないだろうね。なんでそんな格好してるの？



有斐閣の社員さんがね、売上ナンバーワンの本『ポケット六法』を言い間違えて「ろけっとぼっぽー」と言っちゃってね、それでロケットとトリが組み合わさったデザインにされちゃったわけ。なんか安直すぎない？



有斐閣もお茶目な社員がいるもんだね。っていうか、やっぱり慌て者かな？ で、そのロケットは飛ぶの？



本当のロケットで空に飛んでいったら、頭がヤケドしちゃうじゃないか。



そうだね、それで焼き鳥になっちゃったら大変だもんね。ハハハ。



ひどいこと言うなー。ま、それでね、ちょっと君たち最近働かせすぎだからって、社長のエグサさんがお休みをくれるらしい。



ほんと？ 私たちトリ族にも労働基準法を適用してくださるとは感謝だね。



でも、単にグータラはさせてくれずに、お勉強もちゃんとしなきゃいけないんだよ。



あ、それは大学で言う「サバティカル」ってやつだな。訳すと「研究休暇」だ。業界の競争も激しいのに、やさしいエグサ

さんだよね。



競争と言えば、さっき見た経済ニュースで「公正な競争を阻害するとして独占禁止法に基づき」とかなんとかって言ったなあ。ボクたちほとんど法律関係の仕事ばかりだったから、経済ニュースのなかで独占禁止法なんて聞くとなんか妙だな。



法律と経済学は切っても切れない関係なんだそうだよ。なにしろ「法と経済学」という分野もあるそうだ。経済学で証明されたことに基づいて法律が分析されることもあるし、さっきの独占禁止法だって、ちゃんとした経済学の裏打ちがあるらしいよ。なんか経済学って気になる。



ジャジャーン。そう来ると思ってました。それで、エグサさんには経済学を勉強したいってお願いしておいたんだよ。実はボクは一度だけ経済学の本に出たことがあるんだよね。でもそのときはいきなりの出番だったから、経済学がどんなものかさっぱりわからなくてね。それでお願いしておいたんだ。



それなのに、あの本のなかじゃあんなにエラそうな先生の格好してたの？



お仕事だから仕方ないじゃない。でもなんかすっきりしないから、経済学というものがどんな学問なのか知りたいと前から思っていたんだよ。



あれこれ言われている経済学だけど、そもそも経済学って基本的にどんなものなのか私たちは全然知らないよね。いろんな

学問を知らないと、「ホッホー博士」だなんてエラそうに学問を語れないもんね。

 ホッホー博士の「博士」の学位はどの大学で取得したの？

 えーっと、それはあ……。

 なにモゴモゴ言ってるの？ あ、わかった！ アニメなんかに出てくる頭のいい子どもキャラを「ものしりハカセ」なんて言うけど、その「博士」なんだね。

 その言い方なんか気分悪いなー。法律には自信があるけれど、経済学はまったくの素人だから今回は「博士」の名前は潔く返上するよ。

 じゃ、「ホッホー博士」じゃなくて「ホッホーさん」と呼んでいいよね。

 君の「ろけっとぽっぽー」も長すぎて呼びにくいな。略して「ぽっぽー」でいいよね？

 あ、いいねーそれ。「ぽっぽー」は「^{ろっぽー}六法」に通じる、なんてね。

 それで、エグサさんはどんな先生を紹介してくれたのかな？

 女子大の先生だって。なんかそれだけでワクワクしちゃうな！

 君の力点はそこですか。

 いやいや、勉学の意欲に燃えてるよー。なにしろ、経済学だから。



そうだね、経済学と聞くと、そのイメージは数学、グラフかな？ ときどき編集部で見かける経済学の本のなかに、ややこしそうなグラフや難しそうな数式が載っていたりするよ。本当に見た目通りに難しいのかな。



ボクはお金のことを勉強する学問だって聞いたことがあるな。経済学を勉強して、それでがっばり稼いで有斐閣ともおさらばだね。それに経済学部卒は就職に有利なんて聞いたことがあるけれど、経済学って就職したら会社で使うのかな？ だったらボクの再就職も安泰だ。



さあ、それはどうかな。勝手なイメージだからね。これから本当の経済学の姿がわかるんだよね。



それでね、経済学といっても範囲がとても広いから、今回はそのうちのミクロ経済学というのを勉強するそうだよ。大学の経済学部では、1年生は誰でもまずミクロ経済学とマクロ経済学というものを学ばらしい。必修科目になっていることが多いそうだから、経済学の基本中の基本なんだろうね。



なんでも、人間や企業の行動を中心に分析する分野の経済学って聞いたことがあるな。



ミクロ経済学を教えてくれるっていう人は、趣味でロクロを回しているザクロが好きなホクロの多い真っ黒に日焼けした人かな？



オヤジギャグはそれくらいにしといて。



どんな先生が気になるなあ。なんかゼミでも卒業論文の口述試験でも、あれこれと学生にツッコミを入れることが多いらしいという話だよ。そうだとしたら大変だ。鋭いツッコミに耐えねば。



卒業論文書いてないから、大丈夫じゃない？

CHAPTER I

ミクロ経済学って何だろう？



経済学でお金儲け？

 ぼっぼー，ホッホー，こんにちは。これからお相手させてもらいますタケウチといたします。

 初めまして。

 こんにちは。

 それにしても，ここは美しいキャンパスと建物ですね。

 こんなキャンパスだと勉強がのびのびできるでしょう。TVドラマや映画のロケにも使われるし，文化財になっている建物も多いんですよ。



ほんとうに。勉強意欲が湧いてきます！



ボクなんか、こんなに緑の芝生と木々が茂っていると、思いっきり飛び回って野生に戻っちゃいそう。



いやいや、しっかり勉強してくださいね。



ところで先生って結構イケメンですね。それに若々しいし。若い頃は相当モテてたんじゃないですか。



そうですか。もう娘は大学生だし、結婚した後より結婚する前のほうが老けていた、と周りからは言われるんですよ。



(小声で) なんで、いきなりそんなに見え透いたヨイショするの？



(小声で) だって経済学って難しそうだから、先生をチャホヤしておだてたら甘く解説してくれるかなって思って。



なにをヒソヒソと話しているんですか。



あの、早速ですが先生。小社の編集部なんかでときどき経済学の本を見かけることがあるのですが、なにやら難しい数式や何本も線の引いてあるグラフがいっぱいあるようですね。経済学ってどんな学問なんですか。



ボク知ってます！ 何日か前に「〇〇の経済学」って本の広告があって、「この本を読めばあなたも明日からお金持ち！」って書いてありました。お金儲けできるんですよ、先生。



そうでしょうか。私の姿を見てごらん。



あ……ビ、ビンボ臭い。顔までビンボ臭い。



コラッ！ さっきまでイケメンなんて行ってたくせにっ。



顔まで貧乏かどうかわからないけれど、私の着ている服も持ち物も一流ブランドではないし、ここに来たのも運転手付きの高級車でじゃなくて歩いてだよ。経済学がお金儲けの学問なら、私は今頃南国の楽園でバカンスを楽しんでいるだろうね。



でも、経済学はお金のことを研究するんですよ。



いや、それもあんまり正確じゃないと思うよ。確かにお金は経済のなかを流れる血液のようなもので、それはそれで重要な研究対象だけれど、とくにこれから勉強する分野ではむしろお金は脇役にすぎないよ。



それじゃ、商品売る方法かな？ だって、別の「△△の経済学」の本の広告には「これでモノがどんどん売れる！」と書いてあったよ。



商品売る方法を身につけたりお金儲けをするときには、自分だけ商品が売れたり、お金が儲かれば他の人はどうでもいいよね。でも経済学では社会全体の幸せを考えるんだ。



どうやってですか。



たとえば世界では大量の食べ残しを捨てている地域がある一方で、飢えて苦しんでいる人たちがいる地域もあるよね。もし食べ物が地球上でうまく配分されたら、同じ食べ物の量で世界がより幸せになれるはずだよ。



なるほど。



だから、お金儲けと経済学はあまり関係がないし、場合によっては、経済学はお金儲けとは反対のことを主張することもあるんだ。少なくともここでは、「経済学=お金」という考え方はひとまず捨ててほしいな。



な～んだ、ちょっと期待していたのに残念だな。経済学を学んだら大金持ちになれると思ったのに。

マクロ経済学とミクロ経済学の違い



ところで、経済学には**マクロ経済学**と**ミクロ経済学**というのがある、今回はミクロ経済学を勉強すると聞いていますが、そもそもマクロ経済学とミクロ経済学の違いって、なんですか。



そうだね。簡単に言うと、マクロ経済学は「望遠鏡で見る経済学」で、ミクロ経済学は「顕微鏡で見る経済学」かな。



な～んだ、経済学って理科なんだ。



いやいや、もののたとえだよ。望遠鏡っていうのは、遠くからあるものの姿を見渡すために使うよね。同じようにマクロ経済学も全体の経済の動きを分析対象とするんだ。だから、よく使われる言葉には、GDP、失業、インフレ、景気変動などがある。どれも経済全体をながめるときに使われる言葉だよ。一方、顕微鏡って、あるもののなかの小さくて細かな部分を見るために使うよね。ミクロ経済学も経済のなかの1つ1つの小さな動きを分析する。だから、よく使われる言葉には、価格、

企業、消費者、市場などがあるんだ。つまり経済を構成している個々の経済主体の行動を分析するわけだ。



早速アタマが痛くなってきたぞ。



そうかな？ 意外に単純だよ。お買い物をするときには、商品の値段が変わったら買う数や量を変えたり、別の商品を買うようになったりするよね。そうした行動を経済学者は観察して分析するというわけだ。商品を作って売る側も同じことで、値段に応じて生産量を変えたりするよね。こうした生産者の行動を経済学者は観察して分析する。だから、ミクロ経済学は人間行動を分析するという点で、意外と心理学と仲がいいんだよ。最近人気の行動経済学はそんな分野だ。



なんだか、私たちの行動が見透かされそうですね。



ミクロ経済学をしっかりと学ぶと、消費者や企業の行動が手にとるようにわかって面白くなるよ。



マクロ経済学とミクロ経済学の違いはわかりましたが、ミクロ経済学を勉強することでどんなことがわかるのでしょうか。そして、これからなにが始まるのでしょうか。



そうそう、ミクロ経済学っておいしいの？



食べ物じゃないけれど、別の意味でおいしいかもしれないね。



ワクワクしますねー。

経済問題はどうして起こるの？

 実はそのことに関連するんだけど、「経済問題」ってなぜ起こるんだろうか。

 これはワクワクしないな。

 あまりにも話が大きすぎて、わからないですね。

 まずどんな経済問題があるか考えてみよう。身近なことではないんだ。普段生活していて困ったこと、腹立たしいこと、不幸だなーと思うことなんかで、思い当たることはないかな？

 社員さんがよく言っていることなんだけど、お給料がもっと増えたらいいのに欲しいものを買えなくて困っているとか、通勤のときに満員電車に揺られて辛い^{つら}いなー、なんてことを聞いたことがあるよ。

 そういうことならあります。ニュースで就職活動が過熱して希望の企業に入れない学生が大変だとか、逆に少子高齢化で労働者の数が足りなくて企業が困っている、とかいうのも問題ですよね。

 いま取り上げてくれたいろいろな困ったことは、どれも数多くある経済問題のなかのいくつかだよな。さて、これらの問題に共通していることはなんだろうか。

 そんなこと、考えたこともないなあ。社員さんがお給料をいくらもらっているかも知らないし。



お給料の場合、どんなにたくさんお給料をもらっている人でも、お給料をもっと上げてほしいと不満を持っている。それは買いたいものがたくさんあるからなんだろうね。欲しいものはいくらでもあるのに、お給料の額はかぎられているから、それが不幸の始まりだ。でも欲しいものが手に入ったとして、それで満足だろうか。



満足する、ということがあるでしょうか。欲しいものが手に入ったら、また別のものが欲しくなるんじゃないか？



わかるわかる。欲望はかぎりないもんね。



その通り。人間というのは欲深い存在で、欲しいものが手に入ったら、次は別のものが欲しくなる。少しだけしか手に入らなかったら、もっと多くを欲しくなり、それが手に入ったら、もっともっと多くを欲しくなる。つまり、人間の欲望にはかぎりがない、無限だといえる。



いや多分、人間以外の動物だってそうだと思うよ。



ところがお給料はかぎられていて、月々同じ金額しかもらえない。つまり、欲望は無限で、使えるお金は有限だ。だから不幸なんじゃないかな。



そうですね。お給料が少し増えたとしても、また欲しいものが出てくるから間に合いませんよね。



そのように考えていくと、他の問題はどうかだろう。満員電車の問題は、座席に座ってゆったり通勤したい人はたくさんいる

のに、座席の数は有限だ。だから座れなくて辛いんじゃないかな。就職活動では、希望の就職先の内定をゲットしたい学生はたくさんいるのに、募集人数は有限だ。だから就職活動は過熱する。逆に労働力不足の問題は、働いてほしい企業はいくらでもあるのに、働いてくれる人の数は有限だ。みんな、このように同じ原因を持っているんじゃないだろうか。



そうか。最近、人気マンションの抽選に外れて落ち込んでいた人がいたけど、それもマンションの最上階東南角部屋は1つだけなのに入居したい人はたくさんいるから不幸な人が出てくるわけだし、コーヒーショップやカフェの行列にうんざりするのも、コーヒーマシーンやらスタッフの数がかぎられていて、利用したい人がたくさんいるから苦情が出てくるんだよね。



その通り。つまり経済問題の根本は、資源が有限なのに対して、人間の欲望が無限であるところに存在すると言っている。

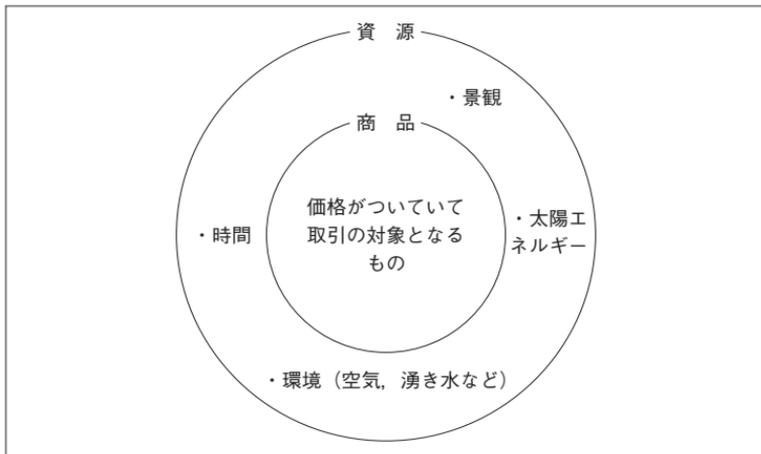


資源ってなんですか。



そうそう、大切な言葉の説明を忘れていたね。経済学では「**資源**」という言葉をよく使うんだ。「資源」というと、原油とか鉄鉱石とか天然資源を思い浮かべるかもしれないけれど、経済学ではもっと広く資源をとらえる。まず商品はもちろん資源だし、電車の座席も資源だ。それに売り買いするものだけが資源じゃないよ。たとえば時間も資源だし、太陽光発電に使われる太陽エネルギーも資源だし、環境にとって大切な空気や湧き

■ 図 I-1 「資源」って何だろう？



水、そして景観も資源だ。これらはどれも売り買いされていないけれど、経済学では資源と考える。まとめてみると図 I-1 のようになるかな。



なるほど、「経済学=お金」ではないことが、なんとなくわかってきました。



でも、「資源」なんていっても、実感が湧かないな。



それなら無理に「資源」という言葉を使わなくてもいいよ。

わかりやすくするために「商品」という言葉もこれから使おうしよう。しかし忘れてはいけないのは、ミクロ経済学では資源を「商品」だけでなく、もっと大きな意味でとらえているということだ。



覚えておきます！

あとがき

有斐閣の本やサイトなどあちこちで、ろけっとぼっぼー（ぼっぼーさんとホッホー博士（ホッホーさん）が登場し、なにくれとなく初学者に世話を焼いてくれ、彼らにお世話になった読者の方々も多いことだろう。しかし、ぼっぼーさんとホッホーさんが自らの向学心から行動するという光景はこれまで見たことがなかったのではないだろうか。ぼっぼーさんとホッホーさんは法律関係での登場が多く、筆者はかねてより経済学分野でも彼らに活躍してもらいたいと願っていたところ、彼らも経済学を是非勉強したい（それにお仕事休めるし!）ということだったので、今回登場してもらうことになったのである。幸いぼっぼーさんもホッホーさんも勉強熱心で、私の期待に十分に答えてくれた。

経済学の本といえば、まさにぼっぼーさんとホッホーさんの会話のなかにある通り、謎めいた数式や図がてんこ盛りである。見るからに難しそうで、そんなところが経済学が敬遠されてしまう理由なのだろう。だから、できれば図も表も使いたくなかったし、使わなければ「図も表もなくって簡単な」という宣伝文句もつけられるので、ぼっぼーさんやホッホーさんの応援がなくても飛ぶように本が売れたかもしれない。しかし、1000字の文字を書き連ねるよりも、それが1つのグラフで説明できてしまうところに図や表のすごさがある。そのようなわけで最低限の図や表は使わせていただいた。そのほうがかえってわかりやすいからである。

とはいえ、経済学は難しいというイメージは洋の東西を問わないようである。若干、脱線めいてしまって恐縮だが、私の経験談がある。イギリス留学時代、就学ビザを更新するために、私はいったんイギリスを出て再入国した。美しいブロードのお姉さまが入国審査

の係官で、私が彼女に対して証明書などを出しつつなんだかんだと説明をしている最中に、そのお姉さまから大学院でオマエはどんな勉強をしているのか、とご下問があった。それで、経済学だと答えると、彼女は口をへの字に曲げて、「よくもまあ、あんなモノを専門にしてるわね」というようなことを言った。就学ビザを欲しい一心の私は、ヘラヘラとお追従笑いを浮かべながら（時代劇に出てくる遊び人風に）、

「そうなんでさア、姐さん。経済学なんていうシロモノを専門にするヤツの気が知れませぬ。ヘッヘッヘッ」

などご機嫌をとり、まんまと就学ビザをせしめたのである。私はこのとき初めて、経済学の本場でも経済学が難しげな学問だと思われていることを知った。

しかし、世の中の仕組みの半分以上は理屈ででき上がっている（とくに社会のルールはそうである）。それを解明するためには理屈で対応するしかなく、その有力な武器が経済学なのである。本書を読まれたみなさんは、その世の中の仕組みの一端を解明できたのではないだろうか（できたと信じたい）。もちろん経済学だけですべての世の中の仕組みを解明することはできないが、それでも不思議な社会現象は経済学で結構説明がつく。本書を読んでもっと社会の諸現象を解明したいと思った方には、是非ミクロ経済学の入門書を開いてもらいたいものである。そして、できれば本書の姉妹編である『ミクロ経済学って大体こんな感じです』を手にとっていただきたい。これは本書よりもミクロ経済学を広く深く展開した入門書であり、本文中にあった「それぞれの消費者の幸せを比べられるのか」や「なぜ供給曲線は限界費用曲線の一部にしか当てはまらないのか」といったことなどが述べられている（また自分の本の宣伝をしてしまった）。

本書では大幅な理論の簡略化を行ったり、不正確な説明だけで終わらせたりしている点が多々ある。しかし、本書の目的を果たすためにそれらの点についてはあえて目をつぶった。正統派理論経済学者の方々からはその説明のいい加減さについてお叱りを受けるかもしれないので、これは言い訳である。

本書の出版を前に、主に東京女子大学竹内ゼミナールの卒業生で研究職に就いているの方々からいろいろなコメントをいただいた。金井郁さん（埼玉大学大学院人文社会科学研究所）、澤部まどかさん（電力中央研究所）、渡辺久里子さん（国立社会保障・人口問題研究所）は、竹内ゼミナール卒業後のそれぞれの専門分野を背景に、私が気づかなかった多くの問題点を指摘してくれた。また現役の竹内ゼミナールの学生である塩原日奈子さん（東京女子大学3年生）、服部みなみさん（東京女子大学3年生）からは、原稿へのコメントはもちろん、「昭和」な私に対して現代の学生の感覚に基づいた貴重なアドバイスもいただいた。さらに私のゼミ生ではないが、竹内香南子さん（東京大学大学院生）には前作と同様に文章をチェックしてもらった。

本書の原稿はすでに2年前には完成していたのであるが、諸般の事情から刊行が遅れることになった（前記の方々の肩書きはコメントをいただいた当時のものである）。そうした紆余曲折にもかかわらず、我慢強く本書の出版を支えていただいた有斐閣書籍編集第2部の柴田守氏、渡部一樹氏に深く感謝を申し上げたい。

2021年9月

廃品回収車のスピーカーの音が聞こえる自宅の書斎にて

竹内 健蔵

索引

○ あ 行

アウトプット 64, 69, 71
インサイダー取引 108, 129
インセンティブ手法 154
インプット 64, 69, 71
オークション 54, 55, 103

○ か 行

外部効果 153
価 格 18, 112
価格カルテル 129
価格規制 122
価格競争 81
格差社会 148-150
価値判断 149, 150
可変費用 96
環境規制 154
環境税 154
環境問題 153, 154
完全競争市場 104, 107, 112, 117,
128, 143-146, 152, 153
—の条件 104, 129, 151
機会費用 134, 140
企 業 22
企業行動の分析 79
規制緩和 130
寄 付 59
業界団体 111
供給曲線 88-94, 112, 113
市場全体の— 91, 113
経済地理学 82
限 界 70, 76
限界効用 32

—逡減の法則 33
限界効用曲線 35, 41, 46, 47, 53,
112-114
限界生産性 70
—逡減の法則 71
限界費用 76, 86, 87
限界費用曲線 85, 86, 88, 89, 94,
113, 114
公共財 156
公共部門 109
厚生経済学の基本定理 150
公正取引委員会 128, 129
公正の問題 149
交通経済学 157
行動経済学 11, 43
効 用 25, 29
合理的な経済人 42
固定費用 96

○ さ 行

財 23
—の同質性 105
最低賃金制 123
サービス 23
産業組織論 81
産 出 64
参入・退出規制 111
参入・退出の自由 110, 129
死荷重 124, 127
資 源 14, 15
資源配分 16, 151
市 場 19, 98, 102
市場均衡価格 117, 121, 122, 125,
127, 128, 130

市場均衡点 117, 119, 141
市場均衡量 117
市場の失敗 153, 154, 156
市場の自由化 130
市場メカニズム 19, 102, 112, 117,
130, 140-143, 147, 148, 150, 151,
154-157
支払意思 19, 27, 138, 141
社会的余剰 120, 121, 124, 125,
127, 130
需要曲線 46, 47, 49-53, 112, 113
市場全体の—— 50, 51, 113
消費 29
消費者 22, 38
——の行動分析 24, 61, 62
消費者行動の理論 93
消費者余剰 54, 56, 119
商品 15, 24, 61
情報の完全性 107, 129
情報の非対称性 108, 109
スミス, アダム 106, 117, 121
生産者 22, 61
——の行動分析 62, 79
生産者余剰 95-97, 120
生産要素 74
製品差別化 81, 107
政府 109, 111, 122
総効用 32
総生産性 70
総生産性曲線 71
総費用 74
総費用曲線 75

○ た 行

多数の生産者・消費者の存在

105

談合 128, 129
地域経済学 82
超過供給 115, 123
超過需要 116, 125
超過利潤 111
長期均衡 111
投入 64
独占禁止法 128, 129
都市経済学 82
特許 111

○ は 行

排出量取引 154
費用 73, 74, 96
不完全競争市場 104
プライス・テイカー 38, 74, 81,
107, 112
法と経済学 3

○ ま 行

マクロ経済学 5, 10
見えざる手 106, 112, 117, 121,
122, 128, 141, 151
ミクロ経済学 5, 10, 11, 43, 157
——の問題意識 16

○ や・ら 行

要素価格 74
利己主義 58, 59
利潤 23, 96
利他主義 59

著者紹介

竹内 健蔵（たけうち・けんぞう）

東京女子大学現代教養学部国際社会学科経済学専攻教授

娘が1人、妻も1人



趣 味

乗り物に乗ること（学生時代に当時の国鉄全線に乗車したことで、留学中にシベリア鉄道を使って一時帰国したことが自慢）、サボりがちな筋トレ、ほとけさまを見ること（お寺巡りではガイド不要）。

学 生 時 代

受験生時代の反動で学部4年間は旅行しまくりました。大学にもほとんど行かず、単位はギリギリで卒業。大学2年生のときにサークルで交通経済学のテキストを輪読したのが、いわば人生の転機。

お 仕 事

大学では入門レベルや初級レベルのミクロ経済学は担当していません。多変関数の制約条件付き極値問題や差分方程式など、数学ばかりの「中級ミクロ経済学」を担当しています。それでやさしいミクロ経済学の本を書きたくなったのかもしれないね。そのほかに「経済数学」「公共経済学」「経済政策」などの科目を担当しています。

ぼっぼーの言う通り、卒業論文の口述試験やゼミでの学生の発表にはほとんどんツッコミを入れます。ですから、ゼミでは私のツッコミに負けないように学生たちは一致団結して切磋琢磨し合うので、自然とゼミ生たちの結束は固くなるようです。そのためゼミ生同士お互い仲がよく、卒業してからもずっと私と親しくしてくれていて、たまにみんなで飲んで騒ぐことを楽しみにしています。

学外では政府や自治体の審議会などを通じて政策提言のお手伝いをしています。道路、自動車、鉄道、海運、航空、観光など、いろいろとやっています。

ろけっとぼっぼー&ホッホー博士と学ぶミクロ経済学入門
— 「市場」って何だろう？

*A Very Rough Introduction to Microeconomics:
What's the Market?*

2021年12月20日 初版第1刷発行



著 者 たけ うち けん ぞう
 竹 内 健 蔵
発 行 者 江 草 貞 治
発 行 所 株 式 有 斐 閣
 会 社

郵便番号 101-0051
東京都千代田区神田神保町 2-17
<http://www.yuhikaku.co.jp/>

印刷・株式会社精興社／製本・牧製本印刷株式会社

© 2021, Kenzo Takeuchi. Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取替えいたします。

★定価はカバーに表示してあります。

ISBN 978-4-641-16590-8

JCOPY 本書の無断複写(コピー)は、著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(一社)出版者著作権管理機構(電話03-5244-5088, FAX03-5244-5089, e-mail:info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。